

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年 1月19日

協議会名: 河内長野市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
南海バス株式会社	日野・滝畑コミュニティバス		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加 (※輸送人員が対前年度比+1%) 99%(26/25年度+1%) →(実績)99.7%(27/26年度)で 減少幅の抑制達成	沿線には商業・レジャー施設が点在することから、地域公共交通確保維持改善事業(計画推進)を活用した総合時刻表や企画乗車券の周知チラシで今後も引き続き積極的な利用促進のためのPRを続けていく。また同時に沿線施設とも連携し、バス利用者への利用特典の拡充や施設へのアクセス方法でバス利用を促す等、マイカー利用からバス利用への転換にも努める。
南海バス株式会社	日野・滝畑コミュニティバス2(奥河内くろまろの郷経由系統)	◆【前回の評価】目標・効果達成状況 コミュニティバスについて、輸送人員が減少しており、目標達成には至らなかった。しかしながら、沿線上の地域活性・交流拠点への運行ルートの見直し、地域協働推進事業による、利用促進の取組により、今後の輸送人員増加が期待できると考えられるので、引き続き公共交通の発展に努めること。	27年11月29日より日野・滝畑コミュニティバスの一部時間帯において、地域活性・交流拠点(奥河内くろまろの郷)へ延伸してできた系統のため、日野・滝畑コミュニティバスと包括的に評価する。			
南海バス株式会社	路線バス小深線2(石見川系統)		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加 (※輸送人員が対前年度比+1%) 103%→(実績)95.7%で 減少幅の抑制未達成	【小深線2(石見川)】 ・沿線人口の高齢化率が48%(市平均30%)と高く、通勤・通学といった固定利用者の確保が難しい。 ⇒沿線住民の移動確保のためには路線維持が重要ということを広報紙等を通じて積極的に情報発信していく。
南海バス株式会社	路線バス高向線1(高向起終点系統)	◆前回目標達成できなかった日野滝畑コミュニティバスについては利用促進に努めた結果、輸送人員(減少幅の抑制:前年度対比+1%)の目標が達成できた。 【具体的な利用促進策】 ・地域活性・交流拠点(奥河内くろまろの郷)への延伸をPRすることにより、バス利用者増に努めた。 ・沿線上のレジャー・商業施設等と連携し利用特典等を積極的にPR	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加 (※輸送人員が対前年度比+1%) 104%→(実績)98.4%で 減少幅の抑制未達成	【高向線1(高向)】 ・日野・滝畑コミュニティ(減少幅抑制目標の達成路線)と並走しているため利用者が分散していると考えられる。 ⇒日野・滝畑コミュニティと連携した利用促進策の検討やニーズ把握に努め、相乗効果で利用者維持を図る。
南海バス株式会社	路線バス天野山線5(旭ヶ丘系統)	・地域協働推進事業に基づきバスマップの配布や企画乗車券のPR ・広報紙で公共交通の特集記事掲載 ・小学生と保護者を対象としたバス教室の開催	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加 (※輸送人員が対前年度比+1%) 95%→(実績)98.8%で 減少幅の抑制達成	「地域公共交通確保維持改善事業」及び「河内長野市地域公共交通網形成計画」等に基づき、利用促進につながる取り組みを実施していくことで、引き続き利用者数の維持※に努めていく(※人口が減少がすすむ中で、利用者数を維持することは実質的には利用者増と同じ意味合い)。
南海バス株式会社	路線バス天野山線4(天野山起終点系統)	・ICカードシステム導入支援やそのPR ・バス待ち環境の改善としてバス上屋改修への補助 等	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加 輸送人員増加で達成 H26年度16,476人→16,838人	【今後の具体的な取組み】 ・総合時刻表入りバスマップ等の作成・配布 ・企画乗車券のPR ・地域でのワークショップの開催 ・バスロケーションシステム導入に向けた調査研究 等
南海バス株式会社	路線バス天野山線3(サイクルセンター系統)		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加 輸送人員増加で達成 H26年度6,802人→7,674人	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成28年 1月19日

協議会名:	河内長野市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>河内長野市は大阪府の南東端に位置し、人口約11万人、面積は109.6km²と府内で3番目に広い。市域の約7割を森林が占め緑豊かな環境である一方、住宅団地が点在するため公共交通は市民生活を支える大切な交通手段である。しかしながら、人口減少や少子高齢化、マイカー普及などの要因により、路線バスやコミュニティバス等の公共交通利用者が年々減少を続けており、持続可能な公共交通を確保することが極めて厳しい状況にある。そのため、住民、交通事業者、行政などの関係者による協働の取り組みを進め、市内を運行する路線バスやコミュニティバス等の公共交通の維持・発展を図る必要がある。</p>

河内長野市地域公共交通会議

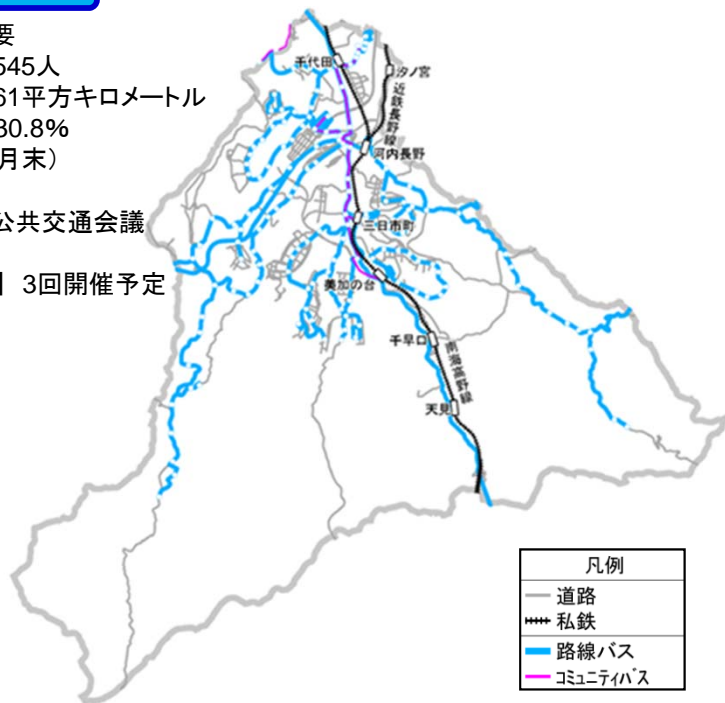
事業名：平成27年度地域内フィーダ系統

目的 計画 目標 (P)

- 事業の目的
公共交通の利用促進につながる取り組みを進め、市内を運行する路線バスやコミュニティバス等の公共交通の維持・発展を図る。
- 計画内容
「河内長野市地域公共交通総合連携計画」や「河内長野市地域公共交通網形成計画」等に基づき、様々な公共交通の利用促進に繋がる取り組みを実施することにより、総合的に既存路線の維持・発展を図り自動車等を利用できない方や通勤・通学等の社会活動、買物・通院等の普段の生活に必要な移動手段を確保する。
- 定量的な目標(各路線における対前年度比)
 - ・運行回数の維持
 - ・輸送人員の減少幅の抑制もしくは増加

概要図・参考資料

- ・河内長野市の概要
 - 【人口】 109,545人
 - 【面積】 109.61平方キロメートル
 - 【高齢化率】 30.8%
(平成27年12月末)
- ・河内長野市地域公共交通会議開催状況
 - 【平成27年度】 3回開催予定



【河内長野市の公共交通網】

具体的取り組み (D)

- 「河内長野市地域公共交通総合連携計画」及び「河内長野市地域公共交通網形成計画」並びに「地域協働推進事業」「地域公共交通調査等事業」等に基づき、公共交通の利用促進につながる取り組みを実施(H26年10月～H27年9月)
 - ・運行ルート見直しにより延伸した地域活性・交流拠点(奥河内くろまろの郷)と連携し利用促進のPRを実施
 - ・企画乗車券の利用者増を図るため、沿線上のレジャー・商業施設と連携し利用特典を用意
 - ・携帯性を重視した1枚もののバスマップを50,000部作成・配布
 - ・広報紙に公共交通の特集記事(平成27年6月号)を掲載
 - ・小学生と保護者を対象としたバス教室の開催(平成27年8月)
 - ・ICカードシステム導入支援や利用方法の広報紙や市ホームページでの積極的なPR
 - ・バス待ち環境の改善としてバス上屋改修への補助(平成27年3月)等

取り組みに対する評価 (C)

- 目標達成状況(平成26年10月～平成27年9月)
 - ・運行回数:対象7系統全てで運行回数の維持ができ、目標達成。
 - ・輸送人員:対象7系統のうち、5系統が目標達成、残り2系統は減少幅の抑制に関して目標未達成。
※目標未達成路線…小深線2(石見川系統)、高向線1(高向起終点系統)

自己評価から得られた課題、対応 (A)

- 小深線2(石見川) 系統キロ数11.2キロ 往路:平日8便・土休日6便、復路:平日5便・土休日7便
 - ・沿線人口の高齢化率が48%と市平均の30%を大幅に超えている。
 - ⇒高齢者等の移動を確保するためにも路線の維持を図る重要性を広報紙等を通じて発信していく。
- 高向線1(高向) 系統キロ数3.5キロ 往路:平日20便・土休日17便、復路:平日17便・土休日18便
 - ・日野・滝畑コミュニティバス(減少幅抑制の目標達成路線)と並走しているため、分散している可能性あり。
 - ⇒並走する日野・滝畑コミュニティバスと連携させた利用促進策の検討やニーズ把握に努める。
 - ⇒潜在的な通勤・通学利用者の掘り起こしに繋がるような啓発を検討。
- ⇒「河内長野市地域公共交通網形成計画」や「地域公共交通調査等事業(計画推進)」等に基づき、総合時刻表入りバスマップの配布やワークショップの開催、バスロケーションシステム導入の検討等、様々な公共交通の利用促進策実施。

アピールポイント、特に工夫した点など

- 『河内長野市バスマップ』:携帯性を重視した1枚もので、表面に路線情報や生活関連施設(スーパーや医療機関)を裏面に主要鉄道駅の時刻表を掲載し生活に密着した情報を集約。また市民に行き渡るよう市内の主要施設へ設置すると同時に、バスマップ完成品の広報紙での宣伝や自治会への回覧を実施。結果、問い合わせ等が多数寄せられた。
- 『日野・滝畑コミュニティバスルート見直し』:沿線住民の通勤・通学時間帯への影響に配慮し、日中の時間についてのみ、新たにオープンした奥河内くろまろの郷(野菜直売所やパン工房、レストラン等)へ延伸。同時に施設と連携しバスの企画乗車券提示者への特典を拡充。
- 『広報紙での公共交通特集記事』:公共交通を取り巻く現状や課題、また地域の取り組みを紹介。地域・事業者・行政の3者で連携協力しながら公共交通を守り育てていくことの大切さを伝えた。
- 『1日交通環境教室』:交通事業者と協力し交通を取り巻く環境問題や電車・バスの利点、乗り方等を学ぶ親子教室を開催。過度のマイカー利用ではなく、適正に移動手段を選択してもらえる材料として公共交通の利点をPR。

※枠が足りない場合等適宜作成可、必要に応じて参考資料を添付願います。